

第一 前記

日、獨、伊樞軸強化ハ昭和十四年ノ平沼內閣以來ノ宿題トシテ殘サレタル我外交上ノ一大難問ナリ、當時國內贊否兩論ノ對立アリ、閣論亦一致ヲ見スシテ甲論乙駁シ、閣議及關係相ノ會談實ニ六十餘回ニ及ヒタルモ、遂ニ廟議ノ決定ヲ見サリシカ、昭和十四年八月二十三日獨露不侵略條約忽然トシテ締結セラルルヤ、平沼內閣ハ國際情勢複雜怪奇ノ言ヲ殘シテ、遂ニ崩壞シ、米內內閣ノ出現ヲ見タリ、當時日支間ノ戰鬪ハ益々擴大シ、蔣政權ハ遠ク重慶ニ退キテ、漸次壞滅ノ道程ヲ辿リツツアリタルニ拘ハラズ、他方舊体制維持國ハ日支事件ノ解決ヲ遷延セシメ、我國ノ消耗困廢ヲ齎ラサンコトヲ策シ、殊ニ英、米二國ハ有形無形ニ蔣介石ヲ援助シ、策謀到ラサル所ナシ、

就中獨逸ノ對英戰爭カ英帝國ノ崩壞ヲスラ懸念セシムルニ至ルヤ、英米ノ聯契ハ頓ニ緊密ヲ加ヘ、八月初メ早クモ兩國ハ「カリブ」海墨西哥灣方面ニ於ケル英領諸島ノ租借ト多數ノ米國驅逐艦ノ英國讓渡等ニ關スル交渉ヲ開始シ、同月中旬「ルーズベルト」大統領ト「マツケンゼー、キング」加奈陀首相トノ「オクデンプルグ」會談ハ米加共同防衛方針ヲ決定シ、之レト前後シテ米國ハ陸海軍備ノ大擴張計畫ヲ發表シタリ、又他方、七月下旬ニ於ケル汎米外相「ハバ」會合ハ南米諸國ヲモ米國陣營ニ引付クルニ或程度ノ成功ヲ收ムル等、米國ハ着々有利ナル体制ヲ整ヘ、鼻息益々荒ク、十一月ノ大統領改選ノ爲メノ國內方略上ノ考量モ亦之ニ加味セラレテ、我國ニ對スル態度ハ日ニ日ニ強硬ヲ加ヘ、些細ナル問題ニ對シテスラ、鬼面ヲ以

テ我ニ臨ムニ至レルノミナラス、濠洲、新嘉坡ニ於ケル英國權益ノ
米國委讓密約說流布セラレ、英、米兩國ハ我ニ對シ包圍政策ヲ執リ
ツツアリトノ懸念スラ生スルニ至レリ、於是乎我朝野ノ憂慮日ニ深
ク、我ト志向ヲ同フスル一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、毅然タ
ル態度ヲ以テ英、米等ニ臨ミ、皇國ヲ泰山ノ安キニ置キ、大東亞諸
民族ノ共存共榮關係ヲ樹立シ、以テ建國以來ノ我大方針タル八紘一
宇ノ大理想ノ實現ニ邁進スルニ非スンハ、到底此未曾有ノ難局ヲ打
破スルノ途無シトスルノ論議ハ、一部親英、米派ヲ除クノ外、我國
朝野ノ通論トナレリ、然ルニ米内閣ハ寧ロ之レト反對ノ方針ヲ取
リ、獨、伊又ハ英、米ノ何レニ對シテモ不即不離ノ態度ニ出テ、歐
戰不介入及極東ノ現狀維持ニ關スル聲明ヲ發シタル外、何等積極的

措置ニ出ツルコトナク、形勢ノ推移ニ應シ善處スルコトヲ以テ外交
ノ要諦トシタルカ爲メ、民論ハ同内閣ノ處置ヲ苟且偷安トシ、以テ
時務ヲ托スルニ足ラス思惟シ、閣内ニモ亦之レト所見ヲ同フスルモ
ノアリ、畑陸軍大臣ハ辭表ヲ提出シタリ、於是米内總理大臣ハ時運
ノ非ナルヲ察シ、昭和十五年七月、即チ組閣ヨリ九ヶ月ニシテ退廟
ニ決シ、大命近衛文麿公ニ下ル

公ノ大命ヲ拜スルヤ、心竊カニ決スル所アリ、組閣ニ先立チ、其ノ
内閣ノ外、陸、海三相タラシメント意圖シタル松岡洋右、陸軍中將
東條英機、海軍中將吉田善吾ノ三巨頭ヲ私邸萩窪萩外莊ニ招致シ豫
メ組閣後ノ對外政策ヲ協議シ、會談三時間半ニシテ日獨伊樞軸強化
ノ根本方針ヲ決定シタリ、之レ實ニ七月十九日ノコトナリ

越テ七月二十二日近衛内閣成立シ、松岡洋右氏外務大臣トナリ、東條、吉田ノ兩中將夫々陸、海軍大臣トナルヤ、樞軸強化ハ茲ニ正式ニ近衛内閣ノ重要外交政策トナリ、外、陸、海三省事務當局ハ數次ノ協議ニ依リ本件處理方針ニ關シ一原案ヲ作成シタリ

然レトモ當時獨逸ハ蘭、白、佛、丁ノ諸國ヲ電撃捲席シ、勢當ル可カラサルモノアリ、他方獨逸ノ對英攻撃着々進捗シ、英本國ノ攻略亦敢テ難事トセサルカ如キ形勢ニ在リ、之カ爲メ獨、伊側ノ鼻息甚タ荒ク、樞軸強化ノコトナト嘆氣ニモ出サス、其ノ底意ヲ藏シツツモ、先方ヨリ進ンテ之ヲ提議セントスルノ風無シ、其際若シ我ヨリ下手ニ出テ、「日本焦ル」トノ感想ヲ懷カシムルニ於テハ、先方ヨリ附ケ入ラレ、不利益ナル條件ヲ持出サルルノ恐レモアリ、且又獨

逸ノ英國攻撃ハ白、蘭等攻略ノ場合ト異リ、假令英本國カ獨軍ニ依リ蹂躪セラレ、英帝國カ崩壞シタリトスルモ、事件ハ之レニ依リテ終局ヲ告クルモノニアラス、對米、對露等ノ重大問題ニ直面セサルヲ得ス、就中對英戰爭停頓スルカ如キコトアラハ、米國參戰ノ危險ハ増大シ、勝敗ノ數スラ測リ知ル可カラサルニ至ラントス、此故ニ獨、伊兩國ハ米國ノ戰爭參入ヲ防止セントスル強キ希望ヲ有シ、日本ノ力ニ依リ同國ヲ太平洋方面ニ牽制セントトラ企圖スルハ當然ナリト觀察セラレ、旁日、獨、伊樞軸強化ニ關シ我方ヨリ進ンテ何等申出ツルコト無シトスルモ、近キ將來ニ於テ、何等カノ方法ニ依リ彼ヨリ我ニ水ヲ向ケ來ルニ相違無シト豫想シ、我方ヨリハ樞軸強化ニ對シ進ンテ何等提議スルコトナク、慎重ニ狀況ヲ偵察シツツ、最

モ都合良キ機會ノ到來ヲ待ツヲ得策ト認メタリ

此故ニ我レハ樞軸強化ニ對シ故ラ冷淡ヲ裝ヒ、獨伊ニシテ我ニ接近スルヲ欲セス、又ハ之ヲ遲疑スルニ於テハ、我ハ米國ト結ヒ、或ハ英國ヲ救フコトモ敢テ辭セストノ態度ヲ示シ、之レカ爲メ當時國內ニ澎湃タル排英民間運動ヲ極力抑制シ、又敢テ親英米派ノ策動ヲ阻止スルコトモナク、急カス驕カスニ獨、伊側ノ出方ヲ注視スルト同時ニ、夙ニ世界ニ向ツテ斥候戰ヲ開始シタリ、暫ラクニシテ少シク狀況ヲ察知シ得タルヲ以テ、一步ヲ進メ、八月一日松岡外相ハ駐日「オット」獨逸大使ヲ御茶ニ招キテ「日、獨、伊樞軸強化カ現今我朝野ヲ通シテノ傾向ナルハ貴大使御承知ノ通ナルモ、我國内外ノ事情ニ照シ、之レカ實現ハ容易ノ業ニアラス、又廟議モ未タ決定スル

ニ至ラス、支那事變ノ處理ハ素ヨリ我獨力ニテ成シ遂ケ得ヘキ充分ノ確信アリテ、別ニ獨逸ヲ煩ハスノ要ナキモ、八紘ヲ一字タラシメシコトハ、我建國以來ノ不動ノ大方針ニシテ、日本ハ此大理想ヲ實現セントスルノ眞劍ナル決意ヲ有ス、其ノ一段階トシテ、先ツ大東亞共榮圈內ニ於テ、右理想ニ基キ行動セントスルモノナリ、貴國ハ今ヤ歐洲大陸諸國ヲ捲席シ、對英攻撃ノ成果亦誠ニ目醒マシキモノアリト雖、翻テ考フルニ今次戰爭ノ結果英國カ崩壞ニ至レリトスルモ、獨逸カ終局ノ目的ヲ達成スルカ爲メニハ、猶ホ長年月ヲ要スヘシ、貴國ハ此ノ二ツノ大局的觀點ヨリ日本トノ提携ノ可否ヲ決スヘキモノナリ」ト告ケタル上「(一)大東亞圈ニ對スル日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執リ、又如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ル

ヤ、又助クル考ナリヤ、又此圈内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求メントスルヤ
(二)日「ソ」關係ニ付獨逸ハ如何ニ考フルカ、又如何ナルコトヲ爲シ
得ルヤ(三)日米關係ニ付キ如何ニ考フルカ、又何ヲ爲シ得ルカノ三點
ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急「ヒトラー」總統ト「リッベントロツ
プ」外相ニ架電シテ、回答ヲ得ラレ度シ」ト要望シタリ、右ハ當時
ノ情勢ヨリ見テ、獨逸側ノ回答ヲ期待シ得ストノ豫想ノ下ニ爲サレ
タル偵察戰術ナルカ、先方ヨリハ果シテ久シク何等ノ音沙汰モナク、
松岡外相ハ態ト催促等ヲ爲スコトナク、之ヲ拋棄シ置キタリ

其ノ後獨逸ノ對英攻撃ハ日ニ激烈トナリタルニ拘ラス、英本國上陸
作戰ハ必スシモ意ノ如クナラスシテ、戰爭ハ停頓シ、米國ノ對英援
助ハ愈々大ヲ加ヘ、獨逸ハ漸ク焦燥シ始メタリト觀測セラレタルヲ

以テ、松岡外相ハ先方ヨリ何等カノ申出ヲ期待シ、外相自ラ渡獨シ
テ樞軸強化ヲ促進スヘシトノ一部ノ要請ヲ却ケ、冷靜不動ノ姿勢ヲ
持シ、若シ期待ノ如ク先方ヨリ乘出シ來ルコトトモナラハ、外交初
頭ニ於ケル我方ノ一勝利ナリト思惟シタリ、然ル處八月二十四日駐
獨來栖大使ヨリ電報アリ、「スターマー」公使カ「リッベントロツ
プ」外相ノ命ニ依リ、約三週間ノ豫定ヲ以テ東京ヘ急行スル旨ヲ報
シ來リ、越エテ八月二十八日同大使「リッベントロツプ」外相ト會
談ノ際、同外相ハ「ス」ノ使命カ日本ノ近況ヲ視察シ、各方面既知
ノ要人ト會見シ、歸來後報告スルニ過キササル旨、事モ無ケニ語リタ
ル後「萬一獨伊側カ英ニ破ルルカ如キコトアラハ、日本カ折角築キ
上ケタル現在ノ地歩モ英米蘇ノ聯合壓迫ニ依リ維持困難トナルヘシ、

此際ニ於ケル日獨關係ノ強化ハ、結局米國ヲシテ其ノ本來ノ勢力範圍タル米大陸ニ歸ラシメ、夫レ丈ケ日支事變ノ解決ヲ容易ナラシムヘシ、又日本カ此際毅然タル態度ヲ示スニ於テハ、對米經濟關係ハ却テ好轉スヘシ、獨自身ノ經驗ニ依レハ、協調外交ニノミ依リタル當時ハ、對外經濟上種々困難シ居タルモ、強硬政策ニ出テタル今日、事態ハ却テ好轉セリ、獨逸カ目下死活ノ大鬭爭ヲ爲シ居ル際、各國ノ對獨態度ハ、獨逸トシテ戰後ニ在リテモ永ク忘ルルコトヲ得サル所ナリ」ト語リタル上、「昨年ノ日獨伊樞軸強化商議ノ經緯ニモ鑑ミ、今回ハ日本側ヨリ何等カノ提案ヲ得度シ」ト述ヘタリ、於是來栖大使ヨリ東亞及歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ關スル相互援助ノ原則的私案ヲ開陳シタルモ、向フハ引ツ付キ來ラス、其儘トナリ、「ス

ターマー」公使ノ使命ニ付キテハ前記以外何等言及ヲ避ケタリ越テ八月二十九日駐露東郷大使ハ「スターマー」トノ長時間ニ亘ル會談ノ結果、同人渡日ノ上ハ、我國ノ外交方針ヲ突止メ、若シ日本ニ於テ希望アラハ、政治協定締結ニ資セントスルモノト認メラルル旨ノ來電アリ

前記兩大使ヨリノ電報及其他ノ事情ニ依リ、獨逸側ニ樞軸強化ノ底意アルヲ明知シタルト同時ニ、「スターマー」公使ノ使命カ何レニ存スルヤヲモ察知シタリ、殊ニ同公使ノ本邦滞在期日カ三週間ノ永キニ亘ルコト、健康モ餘リ勝レサル夫人ヲ同伴シ、特ニ「カムフラ―ヂ」シ居ルコト、及、同人ハ「リッベントロップ」外相ノ懷刀トシテ、最モ信用アル側近者ノ一人ナルコト等ヨリ見テ、同人特派ノ

目的ハ「リッペントロップ」ノ來栖大使ニ對スル言ノ如キ單ナル日本ノ政治狀況觀察ニ非スシテ、日獨伊樞軸強化ニ付キ相當重要ナル交渉ヲ爲サントスルモノタルハ、殆ント疑ナキモノトナレリ

是ニ於テ松岡外相ハ日獨伊樞軸強化ノ氣運ノ濃化シ、三國間ニ取急キ開談ヲ要スル時機ニ達シタリト認メ、八月三十一日白鳥、齋藤兩顧問、大橋次官、西歐亞局長ヲ私邸ニ招致シ、前記外、陸、海三省事務當局ノ作成シタル方針案ヲ檢討修正シタル上、樞軸強化ニ關スル基本要綱案（左記）ヲ作成シ、九月二日、四相會議ニ附議シタリ、其際大綱ニ付キテハ各相ノ意見略ホ一致シタルモ、海軍大臣ハ未タ全面的ノ贊意ヲ表スルニ至ラス、其後間モナク海軍事務當局ヨリハ、右要綱案ニ對シ種々修正ヲ申出テタリ、例ヘハ標題ニ「軍事同盟交

渉ニ關スル方針案」トアルヲ「日、獨、伊提携交渉ニ關スル方針案」ト改メ、方針案別紙第三、日、獨、伊提携強化ニ對處スル基礎要件五ノ（二）ノ「若クハ我準備ノ成否ニ拘ラス國際情勢ノ推移最早猶豫ヲ許サスト認メタル場合」ノ字句ノ削除ヲ希望シタルノ類ナリ（註）

（註）左記黒字ノ部分ハ事務當局案、朱書部分ハ松岡外相ノ自ラ

加筆訂正シタルモノナリ

(左記)

日獨伊樞軸強化ニ關スル件

日獨伊三國ノ提携強化ノ氣運最近頗ル濃化シ此際三國間ニ取急キ開談ヲ要スル時機ニ達シタリト認メラルルニ付左記基本要綱ニ基キ差詰メ獨逸側ト接衝致度

要綱

一 三國間ニ歐羅巴及亞細亞ニ於ケル新秩序建設ニ付凡有ル方法ヲ以テ相互ニ協力ヲ與フル爲原則的協定ヲ遂グ

二 右協力ノ最善ノ方法ニ關シ出來得ル限り短期間ニ三國間ノ協議ヲ行フ

三 差當リ三國共同聲明トシテ前二項ノ趣旨ヲ内外ニ公表ス

說 明 書

獨逸政府ハ今般「スターマー」公使ヲ本邦ニ特派スルニ至レル處右ハ單ニ當方情勢ノ探查ヲ目的トスルヤモ知レサルモ同人ハ「リ」外相ニ特別信用アル人物ニモアリ此際我方トシテ一段踏込ンデ日獨伊樞軸強化ニ關シ話ヲ始ムルヲ適當トスベク差當リ別紙要綱一、二ノ如キ共同聲明ヲ發スルコト内外ノ情勢ニ顧ミ喫緊ナリト認ム

右聲明ハ凡有ル方法ヲ以テ相互ノ新秩序ノ建設ニ協力スル趣旨ナルヲ以テ必要ノ場合皇國トシテ兵力ノ行使ヲモ決意セザルベカラズ尤モ英國ノ關スル限り獨逸トシテ直チニ我方ノ武力協力ヲ必要トセザルヤモ測ラレズ然ル場合ニハ主トシテ米國ヲ目標

トスルコトトナルベク蘇聯ノ問題モ素ヨリ議ニ上ルベキ處何レノ途我方トシテ武力行使ノ決意ヲ爲スニ非ズンバ獨逸側トノ話合ハ不可能ナルベシ而シテ右共同聲明ハ畢竟豫備的ノモノニシテ引續キ軍事協力ノ交渉ニモ入ルヲ適當トスベク要綱第二項ノ最善ノ方法ニ關シ協議ストハ結局軍事協力交渉ヲ意味ス尙右交渉ハ別紙方針案ニ基キ處置セントスルモノナリ

軍事同盟交渉ニ關スル要綱

一、皇國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ確認シ各自ノ生存圈ノ確立及經綸ニ對スル支持及對英、對蘇、對米政策ニ關スル協力ニ付キ相互ニ了解ヲ遂ク（別紙第

一）

註、右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ所要ノ協定ヲ行フモノトス

二、現在日獨伊各國カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關スル相互支持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク

（別紙第二）

三、前記（一）及（二）ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎

要件ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ

四、以上ノ了解ハ必スシモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セサルモ獨伊ノ希望アルニ於テハ協定トスルヲ妨ケス

軍事向監交渉

方針案

日獨伊提携強化ニ關スル件

昭和一五、八、六

一、方針

皇

一、帝國ト獨伊トハ世界新秩序建設ニ對シ共通の立場ニ在ルコトヲ

確認シ相互ニ其ノ生存圈ノ確立及經綸ニ對スル支持及對英、對蘇對米

政策ニ關スル協力ニ就キ了解ヲ遂ク（別紙第一）

二、要領

一、帝國ト獨伊間ニ於テ右方針ニ基ク基本的了解ヲ遂ク（別紙第

一）

註、右基本的了解ニ基キ更ニ日獨伊間又ハ日獨、日伊間ニ

所要ノ協定ヲ行フモノトス

二、現在日獨伊各國カ夫々直面シ居ル支那事變及歐洲戰爭ニ關ス

ル相互支持協力ニ關シ右基本的了解ト共ニ速カニ了解ヲ遂ク

（別紙第二）

三、右實施ハ左ノ各項ニ依ル

イ、前記（一）及（二）ノ交渉ハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル

基礎要件ヲ体シ且別紙第四交渉方針要領ニ基キ行フ

ロ、前記（一）ハ伯林及羅馬ニ於テ實施ス

ハ、前記（二）ハ（一）ト共ニ一併伯林及羅馬ニテ提案シ其ノ具体的

交渉ヲ東京ニ於テ行フ

四、以上ノ了解ハ必スシモ協定ノ形式ヲ執ルヲ要セサルモ獨伊ノ
希望アルニ於テハ協定トスルヲ妨ケス

日獨伊提携強化ノ爲ノ基本トナルヘキ政治的了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在其ノ實現ニ努力シツツアル世界ノ新秩序建設ニ關シ共通ノ立場ニ在ルコトヲ確認シ公正ナル世界平和ヲ助成増進スル爲相互協力ス

二 日本及獨伊兩國ハ夫々新秩序建設ノ爲南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル日本ノ生存圈竝歐洲及阿弗利加ニ於ケル獨伊ノ生存圈ヲ相互ニ尊重シ右地域ニ於ケル新秩序建設ニ對シ相互ニ支持ヲ與ス

三 日本及獨伊兩國ハ相互ニ密接ナル經濟的協力ヲ行フ

之カ爲其ノ生存圈内ノ所在ノ優先的相互交易竝ニ技術ノ交換ヲ行フト共ニ夫々各自ノ生存圈内ニ於ケル相手國ノ經濟的活動ニ付好意的考量ヲ加フ

四 日本及獨伊兩國ハ「ソ」聯トノ平和ヲ維持シ且「ソ」聯ノ政策ヲ兩者共通ノ立場ニ副ハシムル如ク利導スルコトニ協力ス
〔獨伊ト交渉ノ際先方ニ希望アルコト判明シタルトキ、右ノ外更ニ日本又ハ獨伊ノルト共ニ其ノ一方カ蘇聯ト戰爭狀態ニ入ル危險アル場合ニハ執ルヘキ措置ニ關シ協議スルコトトス〕
〔西半球及米國ノ領地ニ付テモ了解ヲ遂クルコトトス〕

五 日本及獨伊兩國ハ米國ヲシテ米大陸以外ノ方面ニ容喙セシメサルト共ニ之ニ對シ兩者ノ政治的經濟的利権ヲ擁護スル爲相互協力ス又其ノ一方カ米國ト戰爭狀態ニ入ル危險アル場合ニ他ノ一方ハ凡ル方法ヲ以テ之ヲ援助ス
ハ兩者ハ執ルヘキ措置ニ關シ協議スルコトトス

日本及獨伊兩國ハ中南米ニ對スル施策ニ關シ緊密ニ協力ス
備考 本了解ハ祕密トス

別紙第二

日本及獨伊兩國ノ歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力ニ關スル了解事項

一 日本及獨伊兩國ハ現在兩者カ夫々直面シアル支那事變及歐洲戰爭ノ解決ニ方リ左ノ如ク相互ニ支持協力ス

日本ハ

(イ) 獨伊ノ希望スル南洋ヲ含ム東亞所在物資ノ取得ニ關シ爲シ得ル限り便宜ヲ供與ス

(ロ) 南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル英國ノ勢力ニ對スル壓迫ヲ強化スルト共ニ獨伊ノ對英戰爭遂行ヲ容易ニスル爲爲シ得ル限り協力ス

獨伊ハ

(イ) 日本ノ希望スル機械類等ノ供給並ニ技術ノ援助ニ關シ爲シ得ル限り協力ス

(ロ) 支那事變解決ノ爲協力ス
〔シ得ル限りノ政治的及經濟的協力ヲ爲ス〕

備考

本了解ハ祕密トス

別紙第三

日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件

一 皇大帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圈ニ就テ

(イ) 獨伊トノ交渉ニ於テ 皇大帝國ノ東亞新秩序建設ノ爲ノ生存圈トシテ考慮スヘキ範圍ハ

日滿支ヲ根幹トシ、舊獨領委任統治諸島、佛領印度及同太平洋島嶼、泰國、英領馬來、英領「ボルネオ」、蘭領東印度、「ビルマ」、(濠洲、新西蘭) 並ニ印度等トス但シ交渉上我方カ提示スル南洋地域ハ「ビルマ」以東蘭印、「ニユーカレドニア」以北ト ス尙印度ハ之ヲ一應「ソ」聯ノ生存圈內ニ直クヲ認ムルコトアルヘシ
(ロ) 我方ノ意向ヲ反映セシムルコトトス

(ロ)帝國ノ委任統治スル舊獨領諸島ハ我領土ニ併合スル措置ヲ講スルト共ニ太平洋ニ於ケル英ノ舊獨領委任統治諸島ハ對米戰略上ノ必要ヨリ努メテ帝國ノ支配下ニ歸スル如ク處理ス

(ハ)(ロ)蘭領東印度ハ獨立態勢ニアラシムルヲ目途トシ差當リ尠ク政治^{スルモ}上及經濟上ノ優越的地位ヲ認メシムルモノトスモ我政治勢力下ニ置ク

右ニ關シ萬一獨逸ノ提案ト相觸ルルコトアル場合ニ於テモ蘭印所產^{在物資及}資源ノ優先的供給、蘭印ニ於ケル獨逸人ノ既存經濟經營繼續ニ關スル保障其他全般ニ於ケル政治的折衝ニ依リ蘭印ニ於ケル^皇帝國ノ政治的指導權ヲ認メシムルコトトス佛領印度支那ニ關シテモ^(ロ)ニ同シ

(ハ)濠洲及新西蘭ハ其他ノ地域トハ其間幾分ノ逕庭ヲ存スルモ帝國ノ關心ヲ有スル所ナルコトニ差異ナク、從テ之力更ニ東亞以外ノ國ノ領土或ハ管理ニ變更セラルルヲ欲セス

(ハ)印度ニ關シテモ概ネ^(ハ)ニ準ス

二日獨伊三國ノ經濟協力ニ就テ

(イ)交易ニ關シ^皇帝國ハ日滿支三國ノ農林水產物等ヲ供給スルノ外支那、佛印、蘭印等ノ特殊鑛產物及「ゴム」等ノ供給ニ付協力ヲ與フヘク獨伊ハ^皇帝國ノ必要トスル技術ノ援助及航空機、機械類化學製品類等ノ供給ヲ爲ス

相互經濟的活動ニ關シテハ^皇帝國ハ特ニ支那及滿洲ニ於テ事實上獨伊ノ爲優先的取扱ヲ爲シ其技術及施設ヲ參加セシム

(四) 右目的ノ爲夫々經濟協定、貿易協定及支拂協定ヲ締結ス
三 日獨伊三國ノ對「ソ」及對米協力ニ關スル^皇帝國ノ態度ニ就テ
世界カ東亞、「ソ」聯、歐洲及米洲ノ四大分野ニ分ルルヲ豫
見セラルル戰後ノ新態勢ニ於テ東亞ノ指導者ヲ以テ任スル^皇帝
國ハ歐洲ノ指導勢力タル獨伊ト密接ニ提携シ

(イ) 「ソ」聯ヲ東西南方ヨリ牽制シ、且之ヲ日獨伊共通ノ立
場ニ副フ如ク利導シテ其勢力圈ノ進出方面ヲ日獨伊三國ノ
利害關係ニ直接影響少キ方面例ヘハ波斯灣ニ^{場合ニ依リテ}向フ方面ニ指
ハ^{印度方面ニ對スル「ソ」聯ノ進出ヲ認ムルコトアルヘシ}向^ハシムル如ク努ムルト共ニ

(ロ) 又米國ニ對シテハ力メテ平和的手段ヲ以テスヘキモ東亞及
歐洲分野ノ政治的、經濟的提携ニ依リ所要ニ應シ米國ニ對

シ壓迫ヲ^{加ヘ}指向^ハ得ルノ態勢ヲ構成シ以テ^皇帝國ノ主張ヲ貫徹
スルニ寄與セシムル如ク策ス

右施策ニ際シ努メテ「ソ」聯ヲ利導スルコトヲ考慮ス
且又獨伊ハ現在南米ニ相當ノ移民ト經濟的地歩トヲ有スル
ヲ以テ將來^皇帝國ノ米國ニ對スル諸般ノ施策ニ之ヲ利用ス
四 日獨伊三國ノ^排對英協力ニ關スル^皇帝國ノ態度ニ就テ

(イ) ^皇帝國ハ東亞新秩序建設^上爲、南洋ヲ含ム東亞ニ於テ英國ノ
政治的權益ヲ^{及經濟的}排除スル爲狀勢ニ應シ諸施策ヲ講ス

(右施策ハ英國ノ地位ヲ薄弱化スルモノニシテ現ニ支那ニ
於ケル^皇帝國ノ對英政策力自ラ歐洲戰場ニ有效ニ影響シ居ル
コト事實ノ示ス所ナリ)

(ロ) 帝國ハ更ニ獨伊ノ對英戰爭ニ一層協力スル爲獨伊ノ希望ス

ル南洋ヲ含ム東亞所在資源ノ取得ニ對シテ協力ヲ惜マス、
及物資 付キ獨伊兩國ノ希望ニ

又東亞ニ於ケル英國權益ノ排除、示威及宣傳ニ依ル協力屬
國ノ 對英

領及殖民地ノ獨立運動支援等獨伊ノ對英戰爭ニ關シ一層ノ

協力ヲ爲ス

五 ~~(イ)~~ 對英武力行使ニ關シ~~ス~~ 皇國ハ 左ノ諸項ニ依リ自主的ニ決定ス

(一) 支那事變處理概ネ終了セル場合ニ於テハ内外諸般ノ情勢

之ヲ許ス限り好機ヲ補促シ武力ヲ行使ス

原則トシテ

(二) 支那事變ノ處理未タ終ラサル場合ニ於テハ開戰ニ至ラサ

ル限度ニ於テ施策スルモ内外諸般ノ情勢特ニ有利ニ進展

スル~~ニ至~~武力ヲ行使スルコトアリ

○カ若クハ我
準備ノ成否
ニ拘ハラス國
際情勢ノ推
移最早猶豫
ヲ許情スト認
メラル場合△

(三) 内外諸般ノ情勢トハ支那事變處理ノ狀況ノ外歐洲情勢特

ニ對「ソ」國交調整ノ狀況米國ノ我ニ對スル動向及我戰

爭準備等ノ諸件ヲ指スモノトス

別紙第四

交渉方針要領

一 本提携強化具現ノ爲ニハ獨伊カ全力ヲ舉ケテ英國打倒ニ邁進シオル今ノ機會ヲ逸スヘカラス獨伊ノ戰勝確定後右折衝ヲ開始スルコトトナラハ其ノ效果ハ極メテ減少セラルルニ至ルヘキノミナラス南洋ニ關シテ相當ノ關心ヲ有スル獨逸ノ態度ニモ亦何等カノ變化ヲ來ス虞ナシトセサレハナリ

本件交渉ニ付テハ獨伊各別ニ行フモノトス、但獨伊側ヨリ三國間ノ交渉ヲ希望シ來ル場合ニハ之ニ應スルモ可ナリ

ニ 歐洲戰爭及支那事變ニ對スル相互支持協力關係ノ了解ハ獨伊ニ關スル提携強化ノ提議ノ際基本的了解ト同時ニ提案シ其ノ

内容ニ付テノ討議ハ東京ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ前記ニ了解ハ一体不可分トス

三 獨伊ヲシテ^皇帝國ノ南洋ヲ含ム東亞ニ於ケル生存圈ヲ承認尊重セシムヘキ別紙第一(二)ノ交渉ニ於テハ南洋ヲ含ム東亞全般ニ付包括的ニ^皇帝國ノ^{優越的}政治的指導權ヲ認メシムルコトヲ主眼トス但獨伊側ヨリ特定地區ニ何等留保的態度ニ出ツル場合ニハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對處スル基礎要件ノ(一)ノ(ロ)項以下ヲ体シ右地區ニ付具体的折衝ヲ行ヒ之ヲ容認セシム

四 獨伊側ヨリ對英^米軍事的協力ニ關シ希望シ來タル場合ニ於テハ^皇帝國トシテハ原則トシテ之ニ應スルノ用意アルモ我現狀ニ鑑ミ武力行使即チ參戰ニ關シテハ別紙第三日獨伊提携強化ニ對

處スル基礎要件第四項(一)(二)(三)ノ如ク考慮シオル點ヲ説明
諒解セシムルト共ニ獨伊側ヲシテ~~帝國~~^皇國ノ對英開戰ニ關スル内
外諸般ノ情勢改善ニ關シ我ニ協力セシムル如クスルモノトス

斯クテ本件ハ主トシテ海軍側ノ慎重態度ニ因リ、一時稍々停頓ノ姿
トナリタルカ、越テ九月五日吉田海相病氣ノ故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シ、
及川大將海軍大臣トナル、此日定例閣議ノ後引續キ總理、外、陸、
海四相會議ヲ開催シ、席上松岡外相ハ本件ノ經過ヲ詳述シタル上、
三國同盟締結以外ニ難局打開ノ方策ナキコトヲ強調説明シタリ、海
相ハ之ヲ聞キ終リタル後、暫ラク沈思ノ末、下僚ノ意見ヲ徵スルコ
トモナク、國務大臣トシテノ自己ノ責任ニ於テ、即座ニ之ニ同意ヲ
表シタリ、是ニ於テ停頓ハ忽チ打解セラレ、松岡外相ノ提案ハ四相
全部ノ同意スル所トナレリ、元來本件ニ付テハ頭初ヨリ陸、海兩相
間ニソリノ合ハサル所アリ、陸軍側ハ全面的ニ且強硬ニ同盟ニ賛成
シ、海軍側ハ兎角ニ之ヲ遲疑スルノ風アリ、松岡外相ハ此間ニ處シ、

兩者ノ意見ヲ合致セシムル爲メ、努力甚タ切ナルモノアリタルハ、
茲ニ特記ヲ要スル事項ナリ

以上ノ如クニシテ日、獨、伊三國同盟條約締結ニ對スル四相ノ意見
ハ繼マリタリ、然レトモ事ノ極メテ重大ナルノミナラス、統帥府ノ
權限トモ亦密接不可離ノ關係ニ在ルヲ以テ、九月十九日內閣ト大本
營トノ聯合會議ヲ開催シ、閑院參謀總長官、伏見軍令部長官御臨席
近衛首相、松岡外相、東條陸相及川海相等參列シ、慎重審議ヲ重ネ
タル末、愈々前記四相會議決定案ニ依リ、先ツ獨逸側トノ交渉ヲ進
ムルコトニ決定シタリ、於是松岡外相ハ「スターマー」公使着京ノ
日ヲ待ツト同時ニ、樞軸強化及同公使ノ行動ニ關スル新聞掲載ヲ禁
止シタリ

「スターマー」公使ハ八月二十三日伯林ヲ出發シ、急遽「モスコ」
ヲ經、九月七日朝東京ニ着シタリ、然レトモ松岡外相ハ既述ノ理由
ニ依リ故ラ同公使ニ此方ヨリ進ンテ會見ヲ求ムル等ノコトナク、徐
ロニ先方ノ出方ヲ見守リ居タル處、九日ニ至リ先方ヨリ會見ヲ申出
テタルヲ以テ、愈々機到レリトシ、人目ヲ避クル爲メ、同日千駄谷
私邸ニ於テ同公使及「オット」大使ト會見シ、意見ノ交換ヲ行ヒ、
十日再會シ、松岡外相提出ノ私、試案ニ付質疑應答ヲ重ネ、十一日
三度目ノ會見及其後數次會見ノ末、茲ニ條約及附屬交換文書ニ付キ
彼我ノ合意全ク成立シ、九月二十四日午後七時二十五分條約實質ニ
關スル交渉ヲ終了シタリ

本件交渉ノ經過左ノ如シ